



5月11日 運動会より

愛の手を

バプテスト心身障害児(者)を守る会

第196号

発行責任者
社会福祉法人 バプテスト心身
障害児(者)を守る会
重症心身障害児施設 久山療
育園重症児者医療療育センター
理事長 宮崎信義
編集責任者 中村晴光
福岡県糟屋郡久山町大字
久原 1869
☎ (092)976-2281
FAX (092)976-2172

理事長への召命を受けて

理事長 宮崎信義

久山療育園重症児
者医療療育センターは、
創立43周年を迎えまし

た。在宅支援センターも開設して5年目に入
り内容の一層の充実を計画しています。こ
れまでご支援して下さった皆様、ボランティ
ア、保護者、職員など多くの方々の祈りと御
協力に感謝申し上げます。今年度の年間主
題として「在宅支援・地域福祉の必要に応え
る」、そして開園祭のテーマとしては「重症
児(者)とご家族に聴くこれからの医療福祉
計画の策定」とさせて頂きました。

1996年に久山療育園園長・センター長
の召命を受け、以来23年余りを施設長として
勤めて参りました。2019年6月14日の第
1回評議員会で理事職承認を受け、6月17
日の第2回理事会の互選により、川野直人先生
(初代)や山田雄次先生(第2代)の後を受
けて理事長を拝命致しました。私が初めに理
事長としての責務を思い、「重症児(者)」と
共に」を合言葉にして、なすべきことを次の
ように考えました。

これまで設立準備の時から設立以後も大切
にされてきた設立理念の再吟味と、これまで
の43年間の主の導きや職員・保護者会、多く
の支援者である友の会(重症児者と共に生き
る「ミットレーベン・ネットワーク」)やボラ
ンティア会、地域の方々に感謝しつつ、今後
も「重症児(者)と共に」医療・療育・福祉事
業を進めていければ幸いです。「愛の手を」
の読者の皆様のお支えをお願い致します。

尚、後任のセンター長には国立病院機構福岡
病院長であられた岩永知秋先生に就任して頂き
ましたが、私と同じ九州大学呼吸器内科出身で
すので呼吸障害・呼吸器疾患の造詣も深く、ま
た福岡県重症心身障害施設協議会の運営にも尽
力して下さっていましたので重症心身障害医療
にもご理解があると思います。

今後のビジョンとしては、「在宅支援セン
ター」の運営、すなわち更なる深化と、障がい
福祉の充実(入所及び在宅重症児者とご家族の
必要に聴き続けること)、粕屋6町を基盤とし
た福祉社会作りの拠点として社会貢献に努める
こと等です。

2009年度に開始された「在宅支援プロ
ジェクト」も、2016年度〜2020年度の第
2段階(在宅支援センターの拡充と新たな事業
展開)から、2021年度〜2025年度の第3
段階である(重症心身障害児者の家族と共なる
コミュニケーション形成の可能性)を展望しています。

私たちは創立理念に従って、「重症心身障害
児に愛の手を」から「重症児者と共に」在宅及
び入所重症児者のニーズに聴く診療計画・個
別支援計画が起これ実践に務め、「久山療育
園は単なる収容施設ではなく、新しい福祉社会
(福祉共同体)づくりの拠点」であり続けること
を決意しています。創立理念を遵守した整えら
れた組織として地域貢献・社会福祉の業を進め
て参りたいと思います。久山療育園と入所及び
通所の保護者会、そして友の会との協働と地域
のご理解が不可欠と思っています。

主 張

「理念の再吟味」

理事長 宮 崎 信 義

■設立理念に従って

新約聖書(新共同訳)コリントの信徒への手紙二4章18節の「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」が久山療育園重症児者医療療育センター(以下「久山療育園」と略す)の創立聖句です。私は毎年の年度目標や開園祭のテーマを考える時には「設立理念」に照らして年度目標を掲げようと思います。そのたびごとに、設立後43年を経ても、いつも新しさに支えられていることを思い起こします。以下に、その理念に応えるあり方を考察致します。

①「設立の目的」から

「重症心身障害児に愛の手を」から「重症児者と共に」在宅及び入所重症児者のニーズに聴く診療計画・個別支援計画が起これ実践に務めます。また、「重症児が社会の片隅に収容されて生きるのはなく、むしろ地域の中心に位置付けられることを願う」とから「在宅支援センター」の建設・開設(2015年7月)が実施され、豊かな生活空間(グルー

プホーム「重症者ホームひさやま」とセンターによる医療支援が行われています。「久山療育園は単なる収容施設ではなく、新しい福祉社会(福祉共同体)づくりの拠点である」と示された理念に導かれ、広く地域福祉に働く「在宅支援棟」も機能しています。このように「在宅支援センター」の働きから、福祉共同体の実現、地域医療連携へと歩を進めています。

②「運営基本方針」から

「久山療育園はキリストの福音を土台として運営されなければならぬ」という理念から「コロニー友の会・諸教会及び保護者会との協働によって園の方向が示され維持されています」。

③「療育基本方針」から

「久山療育園は、病院であり学校であり家庭である。われわれは対象者を技術論的にではなく、全人的にとらえる。そのため、それぞれ最善の職的協力を進めることによって、その専門的領域の働きを全うしなければならない」という言葉から、「久山療育園の療育」の再確認と医療マインドに基づく生命の尊厳を支え、QO

L(生活の質・生命の質・人生の質)を重視しています。

かつて「障がい者と教会委員会」で、「バリアフリー」は一般社会でなく、先ず教会に於いてと発題したことがあります。

神の国の福音宣教を始めとして、キリストの平和の使者と同時に病者・しやうがい者・社会的困窮者の隣人としてのミニストリー(召命・使命)に生き語る存在として久山療育園は召されているのではないのでしょうか。

■重症児(者)と共にある医療福祉

創立後の歴史を振り返ると、次のように導かれた軌跡が示されます。

1. 創定期(創立後10年(黎明期))

1976年9月に児童福祉施設として設立が認可。9月27日に5名の重症心身障害児が入園。1969年11月にバプテスト・コロニー友の会発足。1976年10月施設訪問ボランティア活動開始。1978年11月に変則4回食制開始。1979年度から、北筑前養護学校の訪問教育が開始され、入園児29名が就学した。1980年1月から歯科診療が開始された。1981年5月には30床の増床が認可され、医療法上の病床数が80床となり2病棟体制となった。

2. 創立後11～20年(形成期)

1986年3月全園児に専用の食事訓練椅子(座位保持装置)の作成が完了。1987年4月に地域交流ホールが完成した。1990年から通園モデル事業(1996年度に認可)が開始された。

3. 創立後21～30年(充実期)

1997年度から病棟傾斜配置(医療型・生活型)を実施。1997年度から地域療育部を創設し施設組織機構を5部制となった。2003年度から短期入所事業が支援費制度に移行。2006年度に障害者自立支援法の施行。2006年度の診療報酬改訂は過去最大の約3.16%削減。

4. 創立30周年以後(制度変化による試練から向上途上期)

2007年3月10日「重症児者を生きるに値しない生命と言わせない世の中に」第2回意見広告。2007年3月24日バプテスト・コロニー友の会「討論と音楽の集い」。2008年4月1日「久山療育園重症児者医療療育センター」へ名称変更。2008年4月1日 全病棟が出来高制の「障害者施設等入院基本料Ⅱ」算定病棟へ移行。2008年8月15日創立30周年記念事業・施

5. 創立40周年以後(創立理念の実現から向上期)

2016年4月社会福祉法一部改定によりガバナンス(統治性)の確立、会計の明確化、社会福祉の向上・社会貢献の伸展。2016年度児童福祉法改正「医療的ケア児」に適切な支援の連携促進を各自治体の努力義務。2017年度社会福祉法一部改定に伴い、理事会(9名)・評議員会(13名)及び法定外に運営協議会の設置。設立の時に、このような理念が導き出されたことはまことに幸いなことだと思います。医療福祉制度や社会観の変化にも、この理念によって揺るぐことがなかったと感謝しています。

設全面改築竣工。2009年2月1日4床増床し87床(医療法)、82床(児童福祉法)・短期入所5床となる。2009年度～2013年度に中期5カ年計画、「在宅支援プロジェクト」策定。2010年4月「在宅支援プロジェクト」構想委員会発足。2012年4月「在宅支援プロジェクト」第一段階として7床増床し94床(医療法)、88床(児童福祉法)となる。2013年度障害者総合支援法施行。2015年7月「在宅支援センター」(在宅支援棟とグループホーム)事業開始。

「センター長就任のご挨拶」

センター長／理事 岩 永 知 秋



ました。

7月1日付でセンター長を拝命しました岩永知秋と申します。どうぞよろしく願います。私は今年3月末まで、福岡市南区屋形原にある国立病院機構福岡病院に、通算21年間勤務してまいりました。最後の10年間は院長として、主に病院の運営管理を行ってまいりました。医師としての専門領域は呼吸器(気管支、肺)であり、宮崎信義先生は私の出身である九州大学胸部疾患研究施設・呼吸器科教室の大先輩です。出身は長崎市で、九州大学医学部を卒業し、上記教室に入局後、米国や栃木など国内外留学なども経験し

福岡病院には、呼吸器・アレルギー・小児科など一般入院病床230床とともに、130床の重症心身障害病棟があります。私は重症心身障害医療の専門家ではありませんが、病院管理者として少なからず重心病棟の運営に関わってまいりました。福岡病院は全国の施設と比較しても、人工呼吸管理や経管・胃アを必要とする超重症児、準超重症児を多く擁しているため、7対1看護体制を取るなどの工夫をしてきました。2013年には老朽化した病棟を刷新し、それまでの平屋3個病棟を改めて、新たに4階建ての新病棟を建てました。感染予防や医療安全などに対する日常的な取り組みは重要です。インフルエンザの流行期における予防や発症者が出た時の対応は毎冬の課題です

し、転倒・転落、誤嚥、異食などにも注意が必要です。入所者にとって重要な日中活動を支援するうえで、保育士や児童指導員から構成される療育指導室との連携は極めて大切です。また就学に関しても就学過齢者を含め、療育・教育として、屋形原特別支援学校との協力体制を維持してきました。通所事業としては、医療的ケア度の高いかたがたを中心に、毎日10名前後の在宅児・者を受け入れてきました。どの施設にも共通することですが、まだまだ重症心身障害領域の医療・看護・介護・療育には解決すべき課題が山積しているものと認識しています。とりわけ、入所者とともに保護者のかたがたの高齢化は近年大きな問題となっています。中高年齢に入る入所者では、生活習慣病やがんなどこれまで経験に乏しかった課題に直面するようになり、またそれとともに重症度も増して、新たな対応に取り組む必要が出てきました。また保護者に関しては、個別支援計画の作成と実施、日常の面会

などにおいても、後見人の問題を含めて高齢保護者に対するいろいろな対処が必要となる状況が生まれています。

福岡病院の院長として務めた10年間は、福岡県重症心身協議会(年2回開催)において久山療育センターをはじめ、県内10余りの公法人立の重症心身障害施設と交流を続けてきました。各施設が個別に、あるいは共通して持つ課題について、率直な意見交換、情報交換を行いながら、より良い療養、療育、医療環境を提供することができるよう、皆で知恵を絞ってきました。国立病院機構でも院長協議会の中で重心協議会に所属させていただきましたが、福岡県のように公法人立施設の連携が取れている県は、私が知る限り日本国内にほとんどなく、貴重な財産だと考えています。お互いに切磋琢磨しながら、入所者の方々が明るく活発に、かつ安全に活動できる環境を整備していくことが肝要だと考えます。特に久山療育センターは長く立派な伝統があり、また先進的な取り組みを行っている重症心身障害施設として、多くの注目と敬意を集めてきました。そのような施設に勤務させていただくことができ、大変光栄に思います。私にとって重症心身障害医療は一般病棟も含めた管理者としての関与でしたので、これから新たに多くのことを学ばなければなりません。伝統ある本センターで少しでも入所者や保護者、職員の皆さまのお役に立てるよう、研鑽を積みたいと思います。

個人的なことを少し。趣味は多少の読書・音楽鑑賞、ウォーキング、野球・サッカーのテレビ観戦などがあります。学生時代と違ってスポーツはもはや選手として参加することはありませんが、いまだに興味は尽きません。センター内でお会いすることがあれば、どうぞお気軽に声をおかけください。

などにおいて、後見人の問題を含めて高齢保護者に対するいろいろな対処が必要となる状況が生まれています。

制度・情勢

「令和元年度の全国施設協議会から」

理事長 宮崎 信義

はじめに

2019年度(令和元年度)の全国重症心身障害児施設協議会は、5月30～31日に水戸市(水戸プラザホテル)で開催されました。関東ブロック茨城県4施設が担当され、登録参加者395名/127施設と行政や来賓の方々を含めると400名を超えました。焦点は、「医療的ケア児」支援と報酬改定、グループホームの新たな類型の創設、医療福祉人材の確保と育成、成人期以降からの施設利用者への支援棟です。以下に報告・協議された内容をご紹介します。

行政説明「障害児支援施策の動向」

障害福祉課障害児・発達障害者支援室の刀根 暁(さとる)氏による行政説明がなされました。

1. 障がい福祉施策として、①「障害福祉サービス等報酬改定検討チーム」の設置、②平成30

年度障害福祉サービス等報酬改定(看護職員配置加算等)、③

「居宅訪問型児童発達支援」の報酬改定、④グループホームの新たな類型の創設(「日中サービス支援型」他)でした。当センターでも在宅児者が家庭環境に近い「日中サービス支援型」への移行来年度にも計画しています。

2. 障害児問題について、①児童福祉法の一部改定(平成28年・2016年6月)―障害者の望む地域生活の支援・障害児(者)支援のニーズの多様化に対するきめ細かな対応、②障害児入所施設の移行に関する今後の方針については、「入所者の年齢や状態に応じた適切な日中活動を提供していくことを前提に、医療型障害児入所施設等と療養介護の両方の指定を同時に受ける、現行のみなし規定を恒久化する。」の再確認。

3. 医療的ケア児の支援について、施策として「医療的ケア児等コーディネート養成研修

事業」、「医療的ケア児等総合支援事業」(新規)。「医療的ケア児」は平成28年度の調査では18,651人。その約70%が重症児(者)と言われます

特別講演「重症児をとりまく現在の課題を考える ―茨城東病院での経験から」

国立病院機構茨城東病院小児科医長竹谷俊樹氏から、①医療的ケア児の増加…人工呼吸管理障害児の受け皿としての役割、②小児外来機能…発達障害や不登校にも対応、③医療型入所施設の課題…(1)濃厚な医療的ケア児への対応、(2)高齢化と重症化、(3)「重症児デイ」や小児在宅医療との連携、(4)心理部門の新設、④医療面の充実…(1)若手医師の確保、診療能力の更なる向上、(2)急性期医療との連携について述べられました。

シンポジウム「成人期に達した重症心身障害児者の問題について」

1. 「成人期以降からの施設利用者への支援とは」。①入所者の障害レベルは医療度と同じく重度化が進んでいる、②生活

介護(通所)の中での重症心身障害児(者)は福祉型であるが、実際は医療型に近い(医療ケア増加)。

2. 「成人期における摂食・呼吸機能の低下とアドバンス・ケア・プランニング(進行期のケア計画)」。①進行性の疾患でない限り、今後の経過はわからない、②医師も親も、現実的な状況にならないと考えられない。挿管、気管切開、呼吸器装着、蘇生処置、転院しての治療(手術、化学療法、透析など)。

3. 「光の家療育センター」の最近15年間の振り返りから見た成人期に達した重症心身障害児、者の諸問題について。①死亡原因からの振り返り、(1)死亡時年齢平均値の推移…15年前(10年前)約30歳、10年前(2017年)約40歳、(2)年代別死因…悪性腫瘍…全年代であるが40歳代から増加(一般では60歳代から増加)、呼吸器疾患が最も多く、40歳代から増加し20歳以下も多い。

4. 「成人期に達した重症心身障害者を持つ親の思い」。①在宅重症心身障害児(者)の場合、(1)短期入所事業所が足りない、

(2)入浴サービス回数：週に3回は必要(6～9月の夏期は特に)、(3)医療…重症心身障害を診る医師が少ない。成人になると小児科医から断られることがある、(4)訪問医療等(診療・看護・リハビリ)…在宅生活者にとって不可欠、(5)ネットワークづくりをお願いしたい。②入所重症心身障害児(者)の場合、(1)外泊時は在宅中の福祉サービスについて頂きたい、(2)外泊時の入浴：週に3回は必要(夏期は特に)

おわりに

以上、諸報告は割愛させて頂き、要旨について述べさせて頂きました。次期は、2020年(令和2年)5月20～21日に広島市で開催の予定です。

ご協力ありがとうございました

(2019年3月1日～5月31日) 敬称略

【法人】

一般献金

愛隣幼稚園、飯田節子、いのちの冠
福岡教会、陰山直樹、大牟田バプテ
スト教会、大牟田フレンドシップキ
リスト教会、大村古賀島キリスト教
会、荻本明美、(学)西南学院、上久
原区長柴尾賢一、鷗友学園女子中学
高等学校奉仕委員会、久山町組合助
成金、古賀和男、戸島梧子、篠栗キ
リスト教会、下久原区長佐伯清美、
宗教法人日本バプテスト連盟、南名
古屋キリスト教会、杉内勝彦、西南
学院高等学校、西南学院中学校、竹
市志津、手作品売上げ、匿名、中久
原区長安倍政明、日本キリスト教団
福岡弥生教会、こどもの教会、日本
バプテスト広島キリスト教会、日本
バプテスト連盟豊橋キリスト教会、
日本バプテスト連盟百合丘キリスト
教会、バプテスト久留米キリスト教
会、東久原区長末松裕、久原財産区
管理会会長高橋進、福岡アルミ工業
(株)、福岡第一ライオンズクラブ、豊
前キリスト教会、防府バプテスト教
会、榎谷悦子、松尾順子、恵泉バプ
テスト教会、恵泉バプテスト教会女
性会、山口正夫、嘉久明子、立教女
学院小学校
(以上3,900,690円)自動車販売売上献金、井手伸昌、匿名
久山療育園献金箱
(以上116,661円)

【施設】

一般献金

飯田節子、大場奈緒子、大原あい子、
宗教法人日本バプテスト篠崎キリスト
教会、仙川キリスト教会、寺床亜沙美、
東洋英和女学院中高部宗教委員会、日
本バプテスト連盟堺キリスト教会婦人
会、山本三桂
(以上150,184円)

献品

合屋勉(はがき)、安部田欽也(はがき)、
入岡陽平(フットマッサージ機)、大井
バプテスト教会女性会福祉グループ
(エプロン)、川名幸重(はがき)、草場
貴子(はがき)、古賀バプテスト教会(手
作りゴミ箱)、新藤佐知子(はがき)、
杉内勝彦(草刈機他)、高瀬孝介(お米)、
田上律子(はがき)、田中由美(はがき)、
富里キリスト教会女性会(エプロン)、
鳥飼バプテスト教会(タオル)、日本バ
プテスト広島キリスト教会(タオル)、
入山秀美(はがき)、平川成(手作り品)、
福岡丸本(菓子パン)、恵泉バプテス
ト教会(エプロン)、目白ヶ丘教会(タ
オル他)、山口吉昭(はがき)、山崎和
樹(はがき)
(以上13,640円)

【重症者ホーム】

一般献金



藤田 英彦

わたしは、あなたがたを捨てて孤児とは
しない。あなたがたのところに帰って来る。
もうしばらくしたら、世はもはやわたしを
見なくなるだろう。しかし、あなたがたは
わたしを見る。わたしが生きるの、あな
たがたも生きるからである。その日には、
わたしはわたしの父におり、あなたがたは
わたしにおり、また、わたしがあなたがた
におることが、あなたがたにわかるであ
らう。

ヨハネ福音書14:18～20【口語訳】

前天皇の「生前代替わり」の表明の頃は、
渋い顔をしていた安倍首相や菅官房長官が、
その後、見事と言っても過言でない程に、
この時とばかりの「皇室利用」の演出をして、
着々と「皇室典範」に基づく、ニコニコした
優しい天皇の「あらひとがみ(現人神)化が
進められています。前天皇の死去に伴う「諒
闇の闇」を経なかった故もあって、NHK
を始めとするマスコミの大はしゃぎとし
か言いようのない扇動による祝賀ムードが
漂っています。

しかし一方では、マスコミの社会面で日々
騒がれている生々しいニュースで、繰り返し返
し「幼児虐待」が続く、「引き籠り」による痛々
しい事件が起こっています。5月末早朝に
伝えられた、川崎市登戸駅前でスクールバ
スを待つていた私立カリタス小学校の児童

と保護者が襲われ、児童と保護者2名死亡
と16名の負傷。引き籠りだったと言われる
57才の容疑者のその場での自殺と、その直後
に拡がったSNSでの「死ぬのだったら、自
分だけ死ぬ」の雑言。所謂「自己責任論」。更
にその4日後に起こった元農水省事務次官
が47歳になる「引き籠り」息子刺殺。報道に
よれば、「長い間「家庭内暴力」に苦しみ、川
崎の事件が引き金になった」ということだ。
国の推計によると、64歳までの「長期引き籠
り」は約110万人に上るといわれます。本
人の苦しみと共に、家族の遣り切れなさほ
ろばかりだったのでしょうか。然も、それは長
い長い月日に及ぶ苦しみでしょう。簡単に「社
会的孤立」と言って済ませる事柄では決して
ありません。また、この問題は、精神的、「心
の病」だけで済ませることは勿論なく、重
い障がいやを以て生き抜いている人々と、その
家族が抱えている現実でもあります。

重症児を抱えた川野牧師を援けるためだ
けでなく、街頭に出て市民たちの協力を求め
ようと起ち上がり「ミットレーベン(共に生き
る)」を合言葉に「バプテストコロニー友の会」
から出発した久山療育園(現・久山療育園重
症児者医療療育センター)は、開設43年とな
る。その間、運動の中で「生きるに値しない
生命はない」などの声明を出しています。

「わたしは、あなたがたを捨てて孤児とは
しない。」「神は、そのひとり子を賜った
ほどにこの世を愛して下さった」(3:16)と
宣言したヨハネが、十字架に架けられ、死
んで葬られて陰府に降り、復活して永遠のいの
ちを与えて下さると約束をされたイエス・キ
リストの言葉です。

2018年度決算						(自)2018年 4月1日(至)2019年 3月31日
勘定科目			予算 (A)	決算 (B)	差異 (A)-(B)	
事業活動による収支	収入	児童福祉事業収入	7,035,000	6,990,474	44,526	
		障害福祉サービス等事業収入	510,593,000	506,204,753	4,388,247	
		医療事業収入	770,500,000	784,140,759	△ 13,640,759	
		経常経費寄附金収入	20,120,000	24,352,131	△ 4,232,131	
		受取利息配当金収入	2,501,000	2,489,850	11,150	
		その他の収入	6,711,000	7,346,478	△ 635,478	
		事業活動収入計 (1)	1,317,460,000	1,331,524,445	△ 14,064,445	
	支出	人件費支出	1,057,659,000	1,019,223,843	38,435,157	
		事業費支出	154,697,000	152,686,286	2,010,714	
		事務費支出	139,684,000	116,354,627	23,329,373	
事業活動支出計 (2)		1,352,040,000	1,288,264,756	63,775,244		
事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)		△ 34,580,000	43,259,689	△ 77,839,689		
施設整備等による収支	収入					
		施設整備等収入計 (4)	0	0	0	
	支出	固定資産取得支出	6,500,000	9,511,136	△ 3,011,136	
		施設整備等支出計 (5)	6,500,000	9,511,136	△ 3,011,136	
	施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)		△ 6,500,000	△ 9,511,136	3,011,136	
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	61,080,000	60,298,127	781,873	
		その他の活動による収入		752,832	△ 752,832	
		その他の活動収入計 (7)	61,080,000	61,050,959	29,041	
	支出	積立資産支出		2,212,108	△ 2,212,108	
		その他の活動による支出		5,000	△ 5,000	
		その他の活動支出計 (8)	0	2,217,108	△ 2,217,108	
その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)		61,080,000	58,833,851	2,246,149		
予備費支出 (10)			—			
当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)		20,000,000	92,582,404	△ 72,582,404		

前期末支払資金残高 (12)	305,486,313	305,486,313	0
当期末支払資金残高 (11)+(12)	325,486,313	398,068,717	△ 72,582,404

2018年度決算概要

I.収支状況

2018年度は診療報酬・介護報酬同時改定が実施され、また診療実績が増加した事も影響し、資金収支での収入では、対計画比1%増となり、支出では人件費、事業費、事務費の実績が共に計画を下回り、全体で4.7%減となった。事業収支費用の前年度対比では、4.3%増になり、人件費2.1%増、事業費2.9%増、事務費30.2%増と、共に前年度を上回っている。

また、「社会福祉充実残額」計画に基づいて、その経費を人材確保処遇改善及び大規模施設整備に充てた。結果、当期資金収支差額は、当初計画2,000万円に対し、9,258万円となり7,258万円の増となった。尚、損益から見る事業収支についての当期活動増減差額は、マイナス5,900万円となった。

[収 入]

対計画のプラス要因は、入所・外来の診療実績・件数増及び大口献金増等による1,850万円増となり、マイナス要因は短期入所、通所、重症者ホームひさやま実績減による440万円減により、対計画比収入全体では1,410万円増となった。

※ 対前年度比では、入所・外来の医療収入実績1,200万円増及び、入所・短期入所・通所の障害福祉収入850万円増等により全体では2,100万円増額(1.7%)となった。

[支 出]

対計画のマイナス要因は、雇用形態変更による減や、人員配置のずれ等による人件費3,840万円減、事業費は医療材料、消耗器具備品費等490万円減、医薬品、給食材料等290万円増の差し引き200万円減、事務費は屋上防水工事の競争入札による経費抑制による修繕費1,300万円減を含む事務費2,340万円減により、対計画比支出全体では6,380万円減となった。

※対前年度比では、人件費2,140万円、事業費430万円、事務費2,700万円共に増となり、全体では5,270万円の増額(4.3%)となった。

役員人事について

2019年6月14日(金)開催の定時評議員会において、以下のごとく新たな役員が選任されました。

【理事】

宮崎信義(再任)

踊 一郎(再任)

志満秀武(再任)

渡辺浩行(再任)

吉本法生(再任)

岩永知秋(新任)

叶 義文(新任)

伊原幹治(新任)

中村晴光(新任)

【監事】

樋口重登(再任)

柴田公文(新任)

以上9名

以上2名

任期は同日より2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会終了の時までとなります。

「退任理事を囲んで」

2019年6月開催の定時評議員会までを任期として退任となる役員への感謝送別の集いが、久山温泉ホテル夢家で、6月28日(金)に開催されました。

開設前より久山療育園設立の為に働きを続けて来られ、この度退任の運びとなった山田雄次前理事長をはじめ、岡久凱理事、五斗美代子理事、梅木光男理事の各氏へ感謝の言葉と花束が贈られました。

集いでは、久山療育園へ各々が寄せて来られた想いの強さと、今後の働きの更なる充実への期待が、参加者の一人ひとりより述べられました。

(法人事務局担当課長 馬原哲治)



メモ帳

【4月】▽1日・2日 新入職員オリエンテーション▽2日 通所始園式▽8日 福岡特別支援学校始業式▽9日 福岡特別支援学校入学式 余暇活動(スマイリングホスピタルジャパン)▽11日 療養介護事業所相談支援ネットワーク会議▽13日 バーベキュー(ホーム行事) 西南学院大学神学部新入生による見学(12名)▽14日 保護者会総会 保護者会・園との懇談会▽16日 イースター行事▽19日 親交会総会▽26日 誕生会

職員の異動

(2019/4/1～6/30)

【採用】

▽阿部明子(看護師)

▽占部 晶(看護師)

▽中村遥一(看護師)

▽真崎陽菜(看護師)

▽徳永律子(看護師)

▽坂元由美(言語聴覚士)

▽池田七瀬(介護福祉士)

▽大塚菜奈(介護福祉士)

▽河野敦美(保育士)

▽白石美保(看護師)

▽池上千代子(療育員)

以上4/1付
以上5/1付

【退職】

▽梅木光男(事務局長)

▽今駒保彦(看護師)

▽河原順子(看護師)

▽枘谷麻美(看護師)

▽塩川恭英(准看護師)

▽合六朱美(介護福祉士)

以上6/30付

【6月】▽1日 福岡地方連合小羊会合同集会(子ども24名、大人36名)▽4日 糟屋中南部自立支援協議会コア会議▽5日 北部地区在宅連携会議▽8日 西南女学院宗教部(中・高等部)見学ボランティア(50名)▽12日 県新採用職員研修(5名)▽13日 福岡県重症心身障害施設協議会▽14日 第1回評議員会 麻生リハビリテーション大学校作業療法学科1年見学研修(27名)▽15日 こひつじの園ランチカフェ▽17日 第2回理事会▽18日 余暇活動(スマイリ

ひかり棟より



「グレーテルと一緒にハイ、チーズ!!」

こひつじランチカフェ
5月18日、平尾教会で毎月開催されている子ひつじランチカフェに行ってきました。
今回は西坂さんと田中さん2名で参加しました。
田中さんは初参加でドキドキでしたが、綺麗なチャペルで素敵な歌声を織り交ぜた「ヘンゼルとグレーテル」の演劇を見た後、種類も量も盛り沢山なお昼ご飯(今日は五島うどん。てんぷらやお浸しなどと共にモリモリ頂きました。)やハンドマッサージ・コーヒータ임と賑やかながらもゆつくりとした充実の時間を過ごしました。
(ひかり棟サービス管理責任者 嘉村由香)



「天井に写った雲をじーっと見えています」

「たいせつなあなたへ」 「ワクワク歌と朗読のおくりもの」

今日はどんなことがあるのかなあ。ドキドキワクワクしながら交流ホールへ。

ホールの電気が消え、真っ暗に。すると「パッ」と明るくなり、真っ白なホールの壁と天井にカラフルな絵が映し出され、「ブレイメンの音楽隊」のお話が始まりました。

みんな絵をジッと見ながら、お話を聞き入っていました。

そして最後はホール一面が青空になり、素敵なピアノのサプライズプレゼント。

室内にいるのに、見上げれば澄み渡る青空にふわふわと雲が浮かんでいるのがなんだか不思議で、でもとっても素敵で……時間が経つのも忘れていました。素敵な時間をありがとうございました。

(ひかり棟療育員 貝原 成)

初めての園外活動 大型バスで行く 福岡タワーへの旅

雨が心配された空は青空に。高まる興奮と喜びの中、私が見つけたたくさんキラキラ笑顔。大型バスから見える街の景色をじっと見つめる顔。大型バスから見える街の景色をじっと見つめる顔。母の楽しいおしゃべりに笑みを浮かべる顔。福岡タワーからの眺めを楽しむ親子。オムライスを頬張る幸せそうな顔。どの人もお出かけの喜びに満ち活き活きとし、初めて参加した私は心がほんわか。あったかい時間をありがとう。

(ひかり棟介護福祉士 西田佳苗)



「キラキラ笑顔いっぱい」

自分の車椅子

池田さんは、久山療育園に入所されて36年になります。

車椅子が欠かせない生活を過ごされていますが、自分自身の車椅子を持っています。歩くのが大好きな池田さんの身体面において、車椅子の申請ができるのかどうかの不安もありましたが、この度、「池田さんに合った車椅子を持つてもらいたい」という夢を抱き、イエス様に祈り、申請にチャレンジすることになりました。

意見書からだけでは見えないこと『池田さんの個性』をいかにして役所の方に伝えるかに力を入れました。ひかり棟スタッフから意見を集め、リハビリ担当者によって文書が作成されました。

そしてついに、意見書の作成から一年以上経ち、車椅子が納品されました。池田さんの身体に合った姿勢保持、安全な移動が実現できることとなり、驚きと喜びでいっぱいです。これからご家族の方々と共に、人生がより豊かになりますよう、支援させていただきたいと思っています。

(ひかり棟看護師 吉村優貴)



「熱意と祈りが届きました」

めぐみ棟より

運動会

5月11日は、お天気にも恵まれ最高の運動会日和でした。開会式、大きな声で誓ってくださった選手宣誓や立派な炎を灯した聖火により皆の気合いが一気に入りました。

一生懸命練習した成果を発揮し、皆が一丸となって参加・応援している姿を見てとても胸が熱くなりました。また、新しい元号『令和』の音楽に合わせてダンスと大縄跳びを披露してくれた新人職員の皆さん。とても盛り上がりましたね。

そして恒例の風船飛ばし。今年はすでに大分県から四通もお返事が届きました!!

暖かい方々との繋がりや沢山の笑顔を見ることができた運動会。また一つ私の宝物が増えたと感じました。

(めぐみ棟療育員 原田可奈未)



「新人紹介～
大なわとび!」

「パン食い競争
よーいどん!!」



園外活動

5月17日、利用者4名とご家族、スタッフ総勢14名で福岡動物園に行ってきました。利用者の皆さんは、バスに乗る前からとっても嬉しそうで、着くのが待ちきれない!という様子でした。動物園の入口では、ペンギンやレッサーパンダなど小さな動物たちが日陰で休んでいる様子が見え、奥に進んで行くと、ベンガルヒョウやテナガザルをはじめ、普段目にするこのない動物たちがたくさんいて、皆さん興味深く見ている様子でした。とても暑い日でしたが、みんな首にアイスノンを付けたり、こまめな水分補給をしながら一緒にたくさん動物を見て回り、楽しい時間を過ごすことができました。

(めぐみ棟介護福祉士 石橋哲弥)



「植物園にて」

☆サークル活動☆

めぐみ棟では利用者に合わせて、サークル活動・個別活動・アクティブチャレンジに分かれ療育活動を実施しています。

今回はサークル活動を紹介したいと思います。サークル活動は5〜6名のグループで毎週行っています。4月・5月のサークル活動は『春を探しに』をテーマに『散歩・シャボン玉遊び』でした。ボランティアの方々も一緒に参加して頂き、利用者の方と久山療育園近くのカモや大きな鳥がいる池。畑一面、赤や紫色がきれいなレンゲソウを見に行ってきました。

お散歩に行くと利用者一人ひとり表情が穏やかになり、周りを見て楽しむ方や春の心地よい風が吹き気持ちよさそうにうとうとされる方、介助の方との会話を楽しむ方、いつもの散歩とは違う表情や発声など見られました。天気がよく暑い日には、園庭の木陰にてシャボン玉遊びも大人気で、シャボン玉をたくさん飛ばすと利用者の方もゆったりした中でシャボン玉を見て楽しそうでしたよ!

毎月サークルの内容を変え製作・大型遊具遊び・ゲーム・季節の遊びなどに参加される利用者者に合った活動を提供し、楽しんで活動を行っています。

(めぐみ棟保育士 田崎加奈子)



「シャボン玉あそび」

通所で頑張っています

通所のみんなで運動会！

よく晴れた5月11日、第42回運動会が開催されました！通所では、代表の方による聖火点灯、4名の方の選手宣誓から始まりました。

まずはラジオ体操で身体をほぐし、徐々に皆さんの闘志がみなぎってきました。一つ目の競技は「ひっぱり相撲」です。天井から吊ってある紐を4方向からひっぱります。上手にひっぱりコツを見つけた方や力が入りやすい紐の握り方で作戦を練る方！早速ゲームは白熱しました。

今年は曜日ごとのチームではなく混合で4つのチームに分けましたが赤青黄緑それぞれ自分のチームの方を一生懸命応援しました。

続いて、「ダルマ運びリレー」。二人一組になり、大きなダルマを運びます。でこぼこの道もあったりして、だるまが落ちたりなかなか進まず……ますます会場が盛り上がりました。その後保護者競技の「パタパタママ」「旗取り」「車椅子ダンスパブリカ」どの競技でも皆さんのキラキラした笑顔、一致団結したにぎやかな雰囲気、あつという間に時間が過ぎていきました。

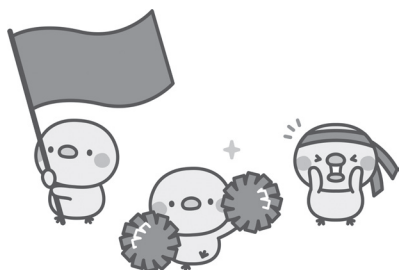
最後は園庭へ行き、風船飛ばしを行いました。快晴の空にみなさんの想いが詰まった風船が遠く遠く飛んでいきました。

とても楽しい一日になりました。利用者の方や保護者の方が一つになり、温かい笑顔、沢山の笑い声が聞こえ、嬉しく思います。皆さんお疲れ様でした！

(通所介護福祉士 平山 咲)



「みんなで引っ張ってます！」



通所夏祭り

観測史上、最も遅い梅雨入りとなった6月27日、通所の夏祭りが行われました。次々と来所される利用者の皆さんの華やかな浴衣姿やわくわくした笑顔で、清々しく夏祭りがスタート。

第一療育室では、的当てや野菜釣り、千本引き、手作りゲームコーナー等の6店舗が開店し、当たりが出たら「ちりんちりん」という鈴の音と共に、熱気と大歓声が響き渡り、大変にぎわいました。たくさん景品を抱えて、あつちこつちにと移動される皆さんの顔には、笑顔が弾けていました。

おしゃれなカフェと様変わりした第2療育室では、ティラミスやプリン、アイスクリーム等を楽しんで頂きました。ティラミスは「食べやすかった」と好評で、なんと来年もリクエストがありました。

そして、見どころの一つは、交流ホールから第2療育室にかけての渡り廊下です。一昨年は絵本「スイミー」の世界、昨年はジャンゲル、今年は宇宙に大変身。地球や惑星の間を、宇宙飛行士達が遊泳したり、鉄腕アトムたちが飛び回っています。ロケットや銀河鉄道999の列車も走っています。静かで神秘的な宇宙空間、感じていただけでしょうか。

(通所保育士 寺田智加子)



「野菜釣り、何が釣れたかな？」



「幻想的な宇宙空間！」

重症者ホームひさやまより

平成最後のバーベキュー会

重症者ホームの利用者様、家族の皆様、ボランティアの皆様、スタッフが、4月13日に通所駐車場へ集合してお昼ご飯をバーベキューで楽しみました。皆さん焼き肉大好きです。ここに笑顔いっぱいでした。デザートも果物やスイーツもあり、とても幸せな気持ちになりました。春の日差しの中で心地よい風も吹いていました。よく考えてみると、平成の時代も終わるのですね。次の時代は何という名前になるのでしょうか。少しワクワクしますね。(後ほど「令和」になると発表がありました。)

平成は、自然災害が多い時代でした。

その時代を力強く生き抜いてきた皆さんですから、きっとこれからも大丈夫です。ホームの皆さんの食べっぷりを見ていると安心しました。『食べる事は生きる事』なのです。

次の時代も力強く生き抜き、たくさん楽しい思い出を作ってくださいませ。最後にボランティアの皆様、家族の皆様の暖かい御支援に感謝して、筆をおきたいと思います。本当にありがとうございました。

(重症者ホーム介護福祉士 島本和明)



狙うは優勝!

5月11日。今年もやってきました久山運動会!今年もホームは通所と合同で運動会に参加します。狙うは優勝!とみなさん朝から気合十分。交流ホールに集まり、まずは選手宣誓続いてラジオ体操。体も温まってきたのでいよいよ競技開始。最初の競技は「ひっぱり相撲」です。天井から吊つてある紐を引っ張り先に切れた方の勝ちという競技です。笛の合図と共にみなさん一生懸命引っ張ります。すぐに切れた方もいれば、なかなか切れない方もいて引っ張り相撲は面白熱!続いて第二競技に移ります。第二競技は「だるま運びリレー」同じチームの方と協力して、障害物いっぱいのコースを攻略しながら大きなだるまをゴールまで運びます。ヒソヒソと作戦を立てながら、いかにスムーズにだるまを運ぶか作戦を立てながらいざ競技開始!大きなだるまは中々言う事を聞いてくれず悪戦苦闘しながらもみなさん上手にだるまをゴールまで運ぶ事ができました!続いて保護者競技の「パタパタ」裏表に色の付いたボードを自分のチームの色にひっくり返していく競技です。御家族の方やスタッフも参加し、喜びの声や悔しがれる声が交流ホール内に響きます。ご家族が頑張る姿を見て利用者みなさんは大喜び!応援にも熱が入りました。そして「旗取り」と続きみんなで一生懸命練習した「車椅子ダンスパブリカ」。利用者様、ご家族の方、スタッフで輪になり笑顔一杯でダンスを踊り交流ホールでの運動会は幕を閉



じました。そして待ちに待った風船飛ばし。グラウンドに移動し病棟のみなさんと一緒に風船を飛ばします。今年もたくさんお返事が来ます様にと風船はみんなの思いを込めて高くて高く飛んでいきました。

今年の運動会も無事に終わり、みなさん自分の持てる力を精一杯出し切りチームのみなさんと協力して最高の運動会を開催する事ができました。来年もみなさん優勝目指して頑張りますように!本当にお疲れ様でした。

(重症者ホーム介護福祉士 土居ひとみ)

43年のあしあと



久山療育園の食事①

“40年前のあの頃”

栄養課 中山裕子

当センターは1976年開設され、今年で43年。私は開設3年目に入職致しました。当時は今日のような医療・福祉制度とは程遠く、また「重症児者の介護・栄養・食事」に関する文献も積み上げた経験や知識も無い中で、「先輩施設に教えを乞う」ことが最良の手段。しかし、これも当施設に合うか否かは手探りの状態でした。

10年毎の記念誌に簡単に重症児の食事や栄養課の経過を記載していますが、10年目の記念誌では、特に問題山積で、難問が立ちほだかり、日々悪戦苦闘の形跡があります。

開園当初久山に勤務し、後に施設設立のT氏に30年ぶりに再会した際、「あの頃は20代、汗をかきながら走り回っていた姿を思い出す」「とにかく、走り続け間違っていたらそこで悩み苦しみ方向転換！でしたね。」と想い出話。

“本当にあの頃は解決できる術が何も無かったです”

当センター栄養課の開設時と現在

	開設(1976年～)	現在(2019年)
医療法・制度	「基準給食」	「入院時食事療養Ⅰ」
給食室・構造	1976年 新舎建築	2008年 全面改築 新舎・新給食室
施設構造・区分 設備機器	監査上不適(構造・配置・衛生区分) 不足機器や「使えない」機器あり ステンレス製の重い配膳車	監査上適(構造・配置・衛生・不衛生明確)、 新調理システム配備(ガラスカバー・真空包装) 補助電動式温冷配膳車
栄養業務・事務	手書きの書類・電卓計算	パソコン + 栄養ソフト ⇒次期システム(電子カルテ)導入準備中
平均年齢	12歳	43歳
栄養算出法 給与栄養量	厚生省「日本人の栄養所要量」より(一般人) 年齢による算出 平均1,800kcal 多田園長評価・意見書⇒1,300kcal	厚生省「日本人の食事摂取基準」より個別算出・ 適正体重より決定 平均1,200kcal
食事体制 食事時間(比率)	朝7:00、昼11:30、軽食14:00、夕食17:00 ⇒4回食制(メイン食2回、軽食2回) 9:00、12:00、15:00、18:00(4:1:4:1)	朝・昼(軽食飲料含む)・夕食 7:30、12:00、18:00(3:4:3)
給食数	入所:48+緊急一時2床 通園:県委託事業(母子食)開始 職員食:朝・昼・夕、1日平均50食～ ※入園・通園・職員食:別メニュー・調理	入所:88+短期入所6床 通園:28(26食前後、ホーム9名含む) ホーム:通園日は通園昼食利用 職員食:2008年廃止 ※入園・通園:同一メニュー・調理
食器具	ポリプロピレン+メラミン食器	メラミン食器
訓練食器具	訓練食器:高額な外国製または手作りの木製 や陶磁器	訓練食器:食器メーカー製、安価で多種
設備	魚焼き器・回転釜・蒸し器 食品冷却:扇風機・製氷機	スチームコンベクションオーブン・真空包装器 食品冷却:プラスチックラダー
調理器具	家庭用ミキサー、カッター、 すり鉢・すりこぎ	フードミル・プロセッサー、ブレンダー、 ブレンダー、ロボクーブ、パーミックス
嚥下補助食品	自然食品(片栗粉・寒天・ゼラチン)	自然食品+嚥下補助食品多種・多様 増粘剤:第1世代～第3世代改良が進む 半固形化剤:半固形化・ゼリー化、粥用
流動食 高栄養食品 栄養補助食品	流動食の種類が少ない、手作りの流動食 ほぼ無し、粉末状の高栄養食	多種多様(V・M養強化、加水や粘度調整、経口・ 経管用、食べるタイプ等) 目的に応じて多種多様
参考文献	・重症児者、摂食・嚥下困難対象の文献ほぼ無し ・一般の料理本のみ	・摂食・嚥下・介護に関する文献多数 ・摂食・嚥下に合わせた調理・調理法 ・嚥下調整食の料理本

表は、現在と40年前を示したものです。

給食室の施設設備の変遷

開設当初、給食室は一般の集団給食施設としての設備が配置されていました。200食まで耐えうるという大容量に合わせた大きな回転釜、洗米機、野菜裁断機が設置されていましたが、大きすぎて使えない状況。また、「下処理室がない、調理室の中央に食器洗浄コーナーがあり衛生・不衛生が混在している、傘のようなフードは埃りがたまる」と衛生監査時に指摘され、厨房はいくら対策をとっても害虫や鼠・カラスに荒らされる。幾つかの補修や設備更新をしてもらいましたが、施設構造上の問題は

解決しませんでした。

ここに30周年事業としての増改築構想があり、たくさん思いを込めた給食室の設計・配置検討の末、新しい給食室が2008年に誕生しました。廊下や柱、ELV、スペース、予算等いろんな制約がある中で衛生的且つ職員の負担を軽減できるシステムに近づいたと思います。10年を経て、設備機器の技術の進歩や次世代調理システムの開発、一方、保健衛生指導は年々厳しくなるなど環境もかなり変わりましたが、構造配置や監査指導においては大きな問題無く、現在、経年劣化した機器を計画的に更新しています。

食事体制の変遷

開設3年目に「2回食」導入の方向で話が進みつつありました。当時、行政上は「基準給食(年齢による給与量)」であり、(年齢相応でない体格の)重症児には過剰な栄養・食量となり、朝7時から18時までの間に3食+14時のおやつでは1日中、食事とその準備片付けに追われる毎日。食事(摂食)そのものと食事前後の準備(移動、歯磨き等)に時間や労力(介助)を要します。時間や保育、余暇の時間は多すぎる、2回にしては？という理由でした。今でも多い食事を2回に単純に分けるともっと食事負担が増すと思われる。

まず①適正栄養量算定が不可欠、②2回メインの中間に軽食2回にする4回食にする方向へ。①では当時の多田園長に症状・緊張度・ADL等から生活活動指数(当時労作)を出してもらって、個別の給与栄養量を算出し、年齢上からは平均1800kcalのところ算出後の平均は1300kcalとなりこれを「医師意見書」として保健所に提出。以後、保健所・監査では、栄養量については理解を得ることが出来ました。この体制により、当時は、ゆったりとした食事をしながら、摂食・食事訓練も実施。訓練や保育時間も確保でき、他の機能訓練の成果もあったとの評価でした。食事は「主食・副菜・汁物・デザート」とリッチに、昼の軽食は手作りのおやつ(マドレーヌ、プリン、ババロア等)、夕は捕食的に(パンプディングやおじや等)。メイン食9時、15時、軽食12時(おやつ的なもの)と、18時(軽食)(食事比率は4・1・4・1)。

入所利用者の昼は軽食であったため、職員食と通園食(通園調理室)を別メニュー・別調理で実施していました。それぞれのメニュー作成・調理でめまぐるしく、効率化や仕上りの均質化を目指して、当時の「魚焼き器・回転釜・蒸し器」を「焼く・蒸す機能があり且つ、温度や時間設定可能な」スチームコンベクションオーブン」に替え、食

器洗浄機も導入してもらって、入所・通所・職員食に対応しています。

この変則4回食は当園独自の栄養・食糧構成・メニューとなり、他施設との情報交換など出来ず、暗中模索、試行錯誤の日々でした。この体制も2004年頃まではメリットも多かったのですが、短期入所や通園利用者が多くなるにつれて、在宅の食事時間とのずれが問題視されるようになり、食事時間の変更や比率の微調整を経て、2005年、4回食制は廃止となりました。食事体制は朝7:30、昼12:00、夕18:00、(食事比率3:4(軽食飲料含む)・3)に変更になりました。(以下、次号へ続く)



旧調理室の様子



開設当時の炊飯器・回転釜

【親交会頑張っています!!】

この会は職員の相互扶助、親睦をはかること及び職場の労働条件の改善を計り、働きやすい職場を形成することを目的として活動しています。

今年度より、親交会の活動を活発に行うため、役員の数人を8名(以前は7名)・任期を2年(以前は1年)に改正し、毎年4名が入れ替わる形に変更しました。

今年度は、夏季行事にANAクラウンプラザホテル福岡のクラウンカフェを貸し切つてハワイアン料理とおいしいビールをみんなで飲むと計画しています。また冬には、ソラリア西鉄ホテル福岡にて忘年会を計画しています。

また職場環境の改善として、職員の声を法人に届け様々な取組みを実施しています。働き方改革として、有給消化率の向上やサービス残業の禁止などを強く要請しています。衛生委員会においても、労働災害防止の取り組みは労使が一体となつて行う必要があるため、労働者の危険又は健康障害を防止するための基本となるべき対策(労働災害の原因及び再発防止対策等)などの重要事項について提案・審議を行っています。

職員間の親睦をはかる活動としては、「リフレッシュ協力金」制度の運用を行っています。これは久山療育園で働くすべての人を対象として、職員等が3人以上でどこかに出かけて「自分がリフレッシュした」と実感した場合に1件につき1人1,000円の協力金を支給するもので

す。(1人2回まで)。記録写真と感想を書いて報告書を提出する方法で支援を実施しています。これにより、コミュニケーションが高まり、ここに行つてみたいなど更なるリフレッシュに繋がっています。

いずれにせよ、職員の心身の健康こそ、法人の存続には欠かせないと思つていますので、重症児者の命を守るためにしっかりと取り組んで行こうと思います。

(親交会 会長 松川 寛)



第43回開園祭のお知らせ

テーマ：「重症児(者)とご家族に聴くこれからの医療福祉計画の策定」

2019年9月23日(月/秋分の日) 10:00～15:00

久山療育園重症児者医療療育センターは、創立43周年を迎えました。在宅支援センターも開設して5年目に入り内容の一層の充実を計画しています。これまでご支援して下さいました皆様、ボランティア、保護者、職員など多くの方々の祈りと御協力に感謝申し上げます。開園祭は命の主である神様のお導きに感謝し礼拝を献げると共に、入所・在宅の重症心身障害児者と触れ合って頂きたいと思います。同時に、支援して下さいる皆様と職員たちとも交流を深めて頂きたく、ご来園をお待ちしています。

(理事長 宮崎信義)

2019年度開園祭予定プログラム

感謝礼拝	10:00～11:00
展示・作品販売	10:00～14:30
模擬店/食堂バザー	11:00～14:00
公開療育	11:10～11:40
商品バザー	11:40～14:30
ふれあい・交流の時間	13:00～14:00
閉会のつどい	14:30～15:00

※スケジュールは、7月現在の予定ですので開催までに一部変更される場合があります。ご了承ください。

※西鉄バス、「トリアス久山」から「JR篠栗駅」の間の区間が廃止となり、「久山イコバス」に変わっておりますので、ご注意下さい。
最寄りのバス停は「イコバス久山療育園前」です。



<過去の開園祭の様様>



(ふれあい交流の時間)



(バザー会場)

「バプテストコロニー友の会」から 重症児者と共に生きる 「ミットレーベン・ネットワーク」へ

会長 伊原幹治

2018年度も無事に活動を終わることができ、皆様のご協力に感謝申し上げます。

さて、「友の会」は、今年で結成50年を迎え、標記のように名称を変更しました。そこで、「友の会」結成の原点に立ち戻って、その働きを改めて考えてみたいと思います。

「バプテストコロニー友の会」ができた時には、「久山療育園」はまだ存在していませんでした。では、何故「友の会」結成を急いだのか。それは、施設の開設に間に合わせるために、ボランティアを養成することが第1の目的でした。施設ができてからボランティアを養成するのでは遅く、オープンと同時にボランティアが機能する状態を目指していたのです。そこには、日本の重症児療育を牽引して来た東京の島田療育園で提起された「腰痛」の問題がありました。職員の苛重な労働を軽減するために、職員と共に働くボランティアが求められたのです。

第2に、「友の会」は街頭募金やチケット募金を通して、設立資金を集める役割を果たしました。このように、「友の会」は運動体であり、設立母体として久山療育園と共にありました。

また、この頃は、ボランティアVolunteerと言う言葉が定着する前で、当時『広辞苑』（岩波）も「志願兵」を第一義にしていました。その頃の日本には、「社会奉仕」とか、「慈善活動」という言葉しかなく、そこには、「宗教を背景にした奉仕活動」という狭さがあり、「誰でもが無償で行う自主的な活動」というニュアンスは伝えきれなかったように思います。ボランティアという言葉が日本社会に定着するのは、26年後の1995年の阪神淡路大震災の時からでした。

さて、名称の問題ですが、「バプテストコロニー友の会」は、古い時代の理念を温存しており、もはや時代にそぐわないものになっています。「コロニー colony」とは、植民地や植民者の入植地という意味でしたが、現在では、野生生物の同種類の群れが生息する隔離された場所を指す生態学の用語としても使われています。また、そこから派生してハンセン病や結核患者、身体障害者などが集団で生活する大型の療養施設を指す言葉としても用いられました。

しかし最近、ノーマライゼーションNormalizationの見地から、「施設」から「地域」へ、「隔離」から「共生」へと捉え方が移ってきています。そこで、この50周年を機に、重症児者と共に生きる「ミットレーベン・ネットワーク」に名称を変更しました。なお、久山療育園は2008年改築の際に、「施設」色を薄めた「久山療育園 重症児者医療療育センター」に名称を変更しています。

今後の活動としては、今年も8月19日(月)から21日(水)にかけて第29回となる「久山療育園ワークキャンプ」を主催します。また年末には恒例の街頭募金、来年2020年2月1日(土)には、記念のチャリティコンサート(ジョイ倶楽部)と講演会(講師 奥田知志牧師)を、西南学院大学チャペルで行う予定です。新しくなったネットワークの働きにご協力をお願いします。



年末街頭募金（昨年12月）



久山療育園ワークショップ（2018年）

ボランティアだより

ボランティア懇談会

当センターでは、現在、約100名の方が登録ボランティアとして、日々来園して下さっています。洗濯物たため・裁縫・清掃作業・事務作業に加え、病棟や通所での利用者とのふれあい・本読み・紙芝居など、活動内容は多岐にわたります。私たち職員とは違った目線で、利用者との関わりを持っていたただけることは、園全体にとって、大きな存在です。

そこで毎年1回、登録ボランティアの皆さんにお集まりいただき、ボランティア懇談会を行っています。今年も20名の方に参加いただき、活動の様子を語り合ったり、様々なご意見をお聞きすることができました。日頃の感謝の気持ちを伝え、お集まりいただける貴重な時間、お忙しい中お集まりいただき、本当にありがとうございました。

久山デー

5月25日土曜日、大名クロスガールにて、登録ボランティア主催の久山デーが開催されました。今年も入所・グループホームの利用者とそのご家族・職員が4台のバスで参加することが出来ました。

久山のDVDをはじめに鑑賞し、ピアノ&パイプオルガンコンサート、美味しい食事、楽しい紙芝居や博多にわか、最後には手話ダンスと盛りだくさんの会場には、日頃は園内でお会いするボランティアの方々がたくさんおられ、その場にいる皆さんが久山のことを想って下さっている事を改めて実感する温かさがありました。この久山デーを迎えるに当たり、何ヶ月も前から話し合いが行われ、内容や材料の準備など、全てにおいて役割分担がされていて、ボランティアさん一人ひとりがいきいきとして活動されているのがわかりました。また来年も、たくさんの方利用者の方と共に参加させて頂きます。ありがとうございました。



ボランティア講習会のお知らせ

【日時】8月9日(金)
11時～15時

【内容】久山療育園重症児者医療療育センター内見学・介護体験・利用者とのふれあいなど。

療育主任 陣内晶子

歩 行 器

年号が「平成」から「令和」へ代わり世の中は過去とは異なり祝賀ムードに満ちています。決算発表も終わり当法人も役員任期満了に伴って新しい体制が発足しました。社会福祉法の一部改正により社会福祉法人の経営環境は大きく変化しました。これを理解するためのポイントは「見える化」と「見える化」です。単に真面目に業務運営をしておけばよかった時代は終わり、それぞれの社会福祉法人が行政・地域・関係者からどう見られているかという観点と自法人が経営実態やサービス水準、公益的取り組みなどの取り組み組んでいる項目をいかに周知・実施しているかを「ガラス張り」にすることが求められています。

少子高齢化による労働人口の減少や財政基盤の悪化などこれからの社会環境はより厳しい状況が想定されています。社会的使命や社会貢献という側面と、自立した経営基盤の確立とそれを支える医療介護福祉人材の確保・育成などのバランスを保つことが一層肝要となります。

そのためには「選択と集中」と「環境適応力」が重要で、新しいビジョンの下社会環境の変化に迅速にかつ柔軟に対応できる運営形態、透明度の高い開かれた体制の確立、前例主義を廃止して新しいものにリスクを恐れず挑戦していく行動力が必要となっています。

LED開発した研究者の言葉「努力の成果はすぐにはわからないが、ただ紙一重の薄さも重なれば本の厚さになる。この蓄積のエネルギーが将来の成功につながる」また「失敗がいくつも見つかったなら成功は近い。なぜなら失敗は成功に至る方法論の誤りを指摘するメッセージなのだ」が我々に問いかけています。

(M・U)